

令和7年度 第1回常総市立小中学校適正配置実施計画検討委員会

資料No.2

大生小と五箇小による統合計画について

令和7年12月22日
常総市 教育委員会 学校教育課

《令和7年2月開催「常総市立小中学校適正配置実施計画検討委員会」での承認事項》

●統合校：大生小学校

- ◇学校施設の規模：校舎全体の延べ床面積・敷地面積等の比較。
- ◇大規模改修の実施：施設の老朽化が進む状況においても「環境面」が向上。
- ◇地域性を考慮：水海道東部地区に立地する小学校4校は、鬼怒中学校の閉校に伴い、令和7年4月以降において4校すべて水海道中学校区となる。

●統合目標時期：令和9年4月1日

- ◇五箇小学校：令和4年度から複式学級を有する学級編成。
- ◇大生小学校：令和9年度に複式学級を有する学級編成となる見込み。

2. 進捗状況の報告

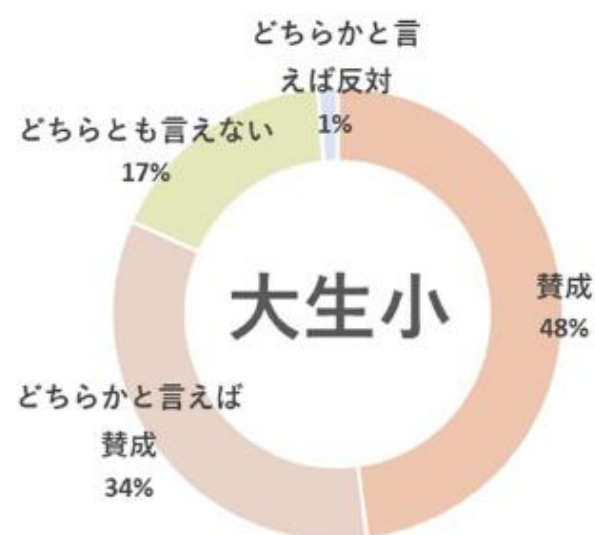
【2-1. 意見交換会等の開催状況】

- 6月9日（月）：五箇地区「意見交換会」を開催 ＜参加者：保護者10名、自治区長6名＞
 - ・統廃合には賛成だが、水害で被災した大生小学校へ統合する計画については理解できない。標高差が4mもある。安全面を考慮した計画とは思えない。
 - ・スクールバスを運行させてほしい。
 - ・大生小の保護者は五箇小の保護者よりも、統合することに対する意識、統合することで何が変わるかといったことに対して意識が低いことを認識してほしい。
- 6月18日（水）：大生地区「意見交換会」を開催 ＜参加者：保護者15名、自治区長9名＞
 - ・段階的にではなく、今回のタイミングで水海道小学校と統合する計画に見直すような考えはないか。
 - ・子どもたちのため、統合後のビジョンを持って進めてほしい。
 - ・時期をずらす検討などをすることなく、今回示された統合目標時期に向かって進めてほしい。
- 7月10日～25日：「アンケート調査」を実施
 - ・対象者：在校生保護者、就学予定保護者、自治区長
 - ・回答率：42.7%（大生小：43.0%、五箇小：42.3%）
- 10月7日（火）：五箇地区「第2回 意見交換会」を開催 ＜参加者：保護者3名、自治区長6名＞
 - ・スクールバス運行時の確認。
 - ・保護者は「統合に向けた具体的な話」を聞いたがっている。
 - ・「児童生徒 減」の根本的な問題、都市計画・住宅政策・人口減少対策について。
- 10月27日（月）：大生地区「第2回 意見交換会」を開催 ＜参加者：保護者2名、自治区長7名＞
 - ・「菅原小と大花羽小」統合時の事例について。
 - ・スクールバスの運行について。
 - ・大生小を統合校とする方針を示していることから、参加を見送ったのだろう。

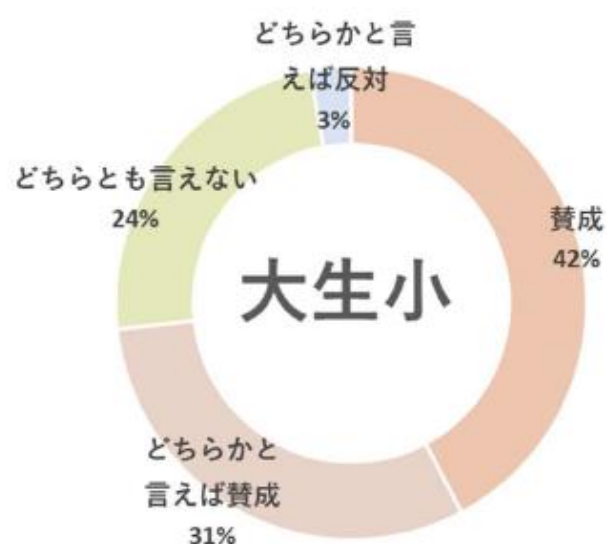
2. 進捗状況の報告

【2-2. アンケート調査の結果（抜粋）】

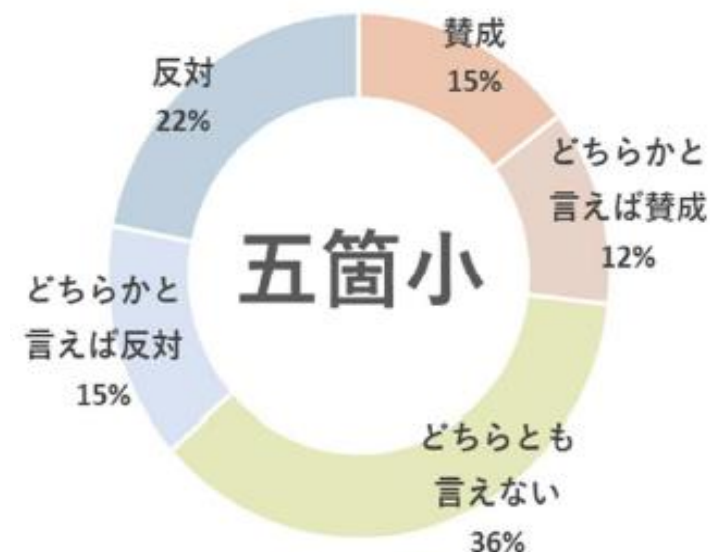
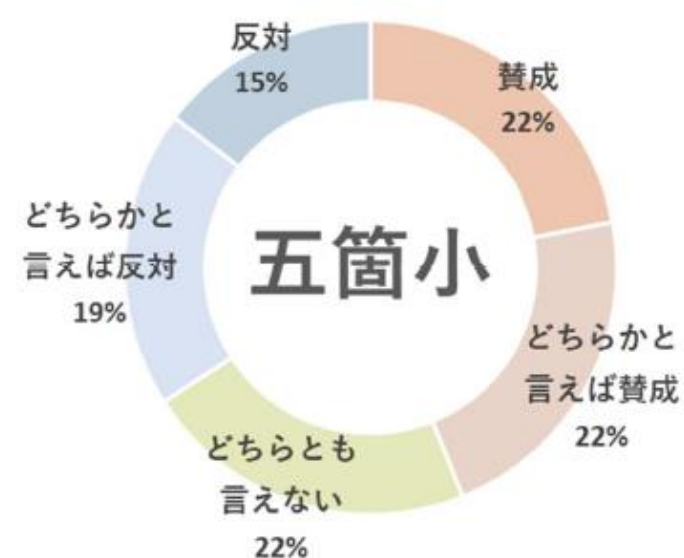
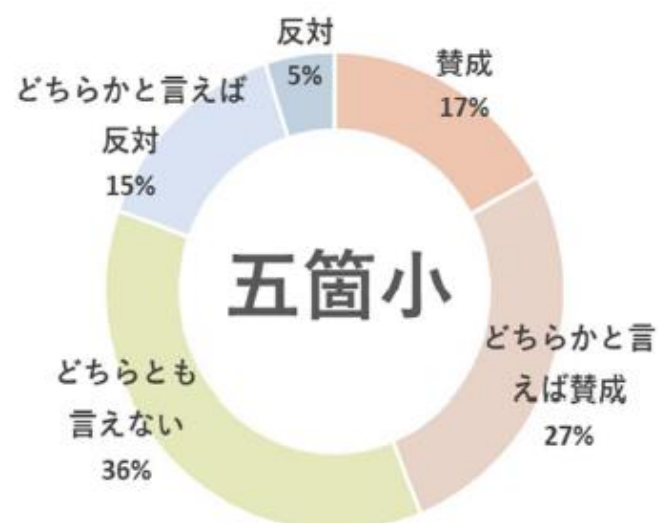
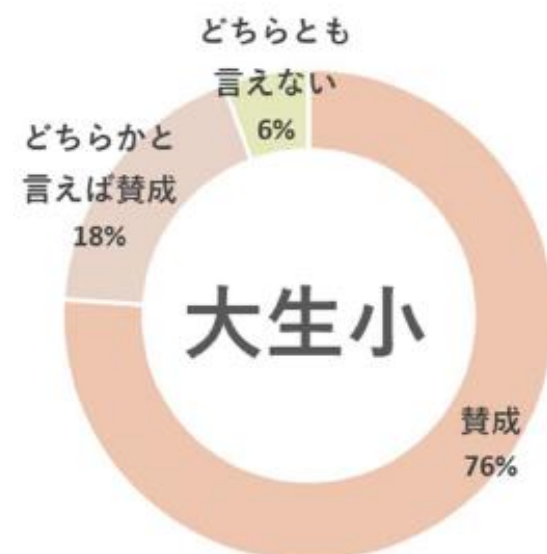
＜2校による統合案について＞



＜令和9年4月1日の統合案について＞



＜統合校を「大生小」とする案について＞



●自由記述（抜粋）

- ◆お互い児童数が少なくて、やれることが限られ過ぎている。統合する前から運動会を合同でやるなど、行事も一緒にしていったらいいと思う。
- ◆今後もう少し交流の機会を増やした方が良いのでは。
- ◆距離が遠くなくても、子供が少なく通学班で帰れない場合は、スクールバスを利用出来るようにして欲しい。
- ◆現在のスクールバス運用の方針は、検討の余地があると思う。
- ◆大生小は、水害後に校舎内も綺麗になっていて教室数も多い。グラウンドも広くて、立地的にも良い。
- ◆大生小は、施設面の大規模改修実施により施設における環境面が向上した。
- ◆地域性を考慮した場合、大生小学校の校舎等を活用したほうがよいと思う。
- ◆統合校舎が五箇小学校の場合、前面道路が狭隘であるため、スクールバスや送迎車が集中した際に交通に支障が出るおそれがある。
- ◆大生小学校の校舎の方が、耐震性など丈夫そうに見えるが、洪水時に浸水する地域になっているため心配。
- ◆確かに大生小学校はキレイだが、洪水の心配もあり安全面で不安が残る。
- ◆常総市洪水マップでも、氾濫した場合、浸水が予想される区域と想定される浸水深などが示されています。
大生小は、五箇小より地盤が4 mも低いのですよ。防災都市を推進している常総市の逆効でないのか。
- ◆児童の安全・安心を第一条件とするためには、標高差は絶対条件と思考するため、五箇小学校を使用すべきと推奨いたします。
- ◆水害の経緯からたどれば大生小は不適當。

●自由記述（抜粋）

- ◆水海道小や三妻小との統合の方が意味があると思います。
- ◆大生小と五箇小だけでは統合しても各学年とも1クラスなので、三妻小もしくは水海道小への統合の方が良いと思う。
- ◆令和9年統合目標（予定）としたからには、そこを目標に進めていってほしいです。時期を先延ばしにしたりされるのは、当事者としては振り回されて困ります。そこに向けて、両校の保護者同士の情報交換や歩み寄りをしていきたいと思う。
- ◆小学校の統廃合にあたっては、反対意見や先延ばしの意見なども出るかと思います。しかしながら、数年先に延ばしにしたところで、数年後にも同じ意見が出るだけであり、教育委員会の皆様には予定通りの統合に向けて粛々と準備を進めていただきたく思います。
- ◆そもそも、こういった統廃合は児童のためにこそ行われるべきものであり、地域住民のセンチメンタリズムのために子供の学習機会が損なわれる事はあってはならないことだと認識しています。
- ◆常総市も猿島郡境町に習って子育てしやすい環境にすべき。
- ◆現在の地区役員などの活動、保護者の役割などがどうなるのか分からないので不安。資源回収などこれからどうなるか詳しく知りたい。

● (1) 「水海道小・三妻小を含めた統合計画」について

- ◆「複式学級の解消」が最優先課題であり、大生小学校および五箇小学校は、令和9年度において共に複式学級を有する学級編成となる見込みである。
- ◆「生活集団の確保」・「学習環境の確保」といった観点を念頭に置き、更に子どもたちの環境の変化に対する心的負担等も考慮し、現計画のとおり第2段階において（段階的に）大生小学校と五箇小学校の2校による統合計画を検討する。
- ◆「大生小と五箇小」の2校による統合を実施しても「適正規模」にならないのではないかという指摘については、統合したことによる効果として、「現時点における複式学級の解消を図ることができる」・「将来的な複式学級の回避につながる」といった、より良い教育環境を図る上で「非常に重要な効果を得ること」が見込めることから、適正規模校へ向けて段階的に検討を進める方針。
- ◆仮に、水海道小・三妻小を含め 統合計画を再編とした場合、「適正配置実施計画検討委員会」を開催し、『計画の変更に向けた議論・検討』を重ね、各地域において、保護者や地域住民の方々への説明会等を開催することで十分な理解を得た上で、さらに市議会への報告を行い、市長・副市長・教育長の承認を得るなど、方針決定までに一定期間を要することとなり、その間にも「児童数・学級数の減少傾向」、「複式学級の状況」は進行することから、課題が深刻化することも想定されるため、更に市全体の適正配置計画も考慮しながら、慎重に見極めたいと考えている。

3. ご意見・ご要望が多かった2点に関する方針

● (2) 「統合校」について

本市は、市域の大半で水害のリスクを抱えている状況から「川との共生」を図ることが求められる風土となっており、ハード・ソフト両面から流域全体で治水対策（防災・減災）に取り組んでいる。

（ハード面）

- ◆「鬼怒川緊急対策プロジェクト」による河川整備を集中的に実施 → 「防災力」の向上

※鬼怒川・八間堀川における堤防整備（かさ上げ・拡幅）等

（ソフト面）

- ◆ 気象災害に対する児童の安全の確保については、学校現場において平常時から避難訓練の実施や、児童一人ひとりの防災行動計画となるマイ・タイムラインの作成など、防災教育・防災学習の充実を図る。
- ◆「線状降水帯の発生」などの予測精度が向上したことから、より正確な情報を事前に把握することで、気象情報に即した初動対応への対策検討（危険が予測される場合は学校に来させない、在校時であれば早期に下校させるなど）に際し、迅速化を図ることが可能となる。

（総合的判断）

- ◆ハザードマップにおける「想定浸水深・危険区域」を踏まえ、学校施設の規模や、大生小学校においては大規模改修の実施により施設の環境面が向上したことの他、水海道東部地区に立地する小学校4校は、鬼怒中学校の閉校に伴い水海道中学校区となる地域性なども考慮し、総合的に判断することが、より望ましいものとする。
- ◆更に、ASV常総との相乗効果・交流人口拡大を想定し「五箇小校舎の跡地活用」検討も視野に入れる。

4. 今後の統合方針（案）

●統合校：大生小学校（変更なし）

- ◇学校施設の規模：校舎全体の延べ床面積・敷地面積等の比較。
- ◇大規模改修の実施：施設の老朽化が進む状況においても「環境面」が向上。
- ◇地域性を考慮：水海道東部地区に立地する小学校4校は、鬼怒中学校の閉校に伴い、令和7年4月以降において4校すべて水海道中学校区となる。
- ◇ASV常総との相乗効果：交流人口の拡大等を想定した「跡地活用」検討も視野に入れる。

●統合目標時期：令和9年4月1日（変更なし）

- ◇五箇小学校：令和4年度から複式学級を有する学級編成。
- ◇大生小学校：令和9年度に複式学級を有する学級編成となる見込み。

- 保護者が望んでいるのは、スクールバスや体操服についてなど統合に向けた詳細。
 - ➡ 統合に向け詳細な検討を行う「統合準備委員会」を発足し、説明会を開催。
- 年度内に、第2回「適正配置実施計画検討委員会」の開催を予定。

4. 今後の統合方針（案）

●アンケート調査の結果

◆大生小と五箇小が統合することについて

- ◇賛成・どちらかと言えば賛成：大生地区：82% ・ 五箇地区：44%
- ◇反対・どちらかと言えば反対：大生地区：1% ・ 五箇地区：20%
- ◇どちらとも言えない：大生地区：17% ・ 五箇地区：36%

◆令和9年4月1日の統合案について

- ◇賛成・どちらかと言えば賛成：大生地区：73% ・ 五箇地区：44%
- ◇反対・どちらかと言えば反対：大生地区：3% ・ 五箇地区：34%
- ◇どちらとも言えない：大生地区：24% ・ 五箇地区：22%

◆統合校を大生小学校とすることについて

- ◇賛成・どちらかと言えば賛成：大生地区：94% ・ 五箇地区：27%
- ◇反対・どちらかと言えば反対：大生地区：0% ・ 五箇地区：37%
- ◇どちらとも言えない：大生地区：6% ・ 五箇地区：36%

●意見交換会 参加者への個別聞き取りを実施

- ◆保護者が望んでいるのは、スクールバスや体操服、PTA運営組織についてなど統合に向けた詳細である。
 - ・現在示されている方針は「案」として説明を受けても、保護者は既に決定事項であると認識しているというのが実情である。
 - ・その上で、保護者同志は意見交換を行っており、その内容のほとんどが、大生小学校に統合される方針を素直に受け入れた訳ではないが、統合に向けた先の話・具体的な話を聞きたいと考えているというのが実情である。



アンケート調査のいずれの設問においても、大生地区と比較し、五箇地区における賛成割合は低いものとなっているが、個別聞き取りによる『実情』も踏まえ「統合準備委員会」を発足し、統合に向けた準備を進めたい。

● 「統合準備委員会」とは

- ◇ 「市立小中学校適正配置実施計画」に基づき、統合を円滑に進めると共に「統合小学校の開校に必要な事項」について協議するため設置される委員会。
- ◇ 統合対象校の校長、教頭及び教員その他、PTA関係者や地域住民代表（自治区長や保護者）の方々が、3つの部会（総務部会・学校運営部会・PTA部会）を構成し、統合までの詳細な検討を行っていただく。

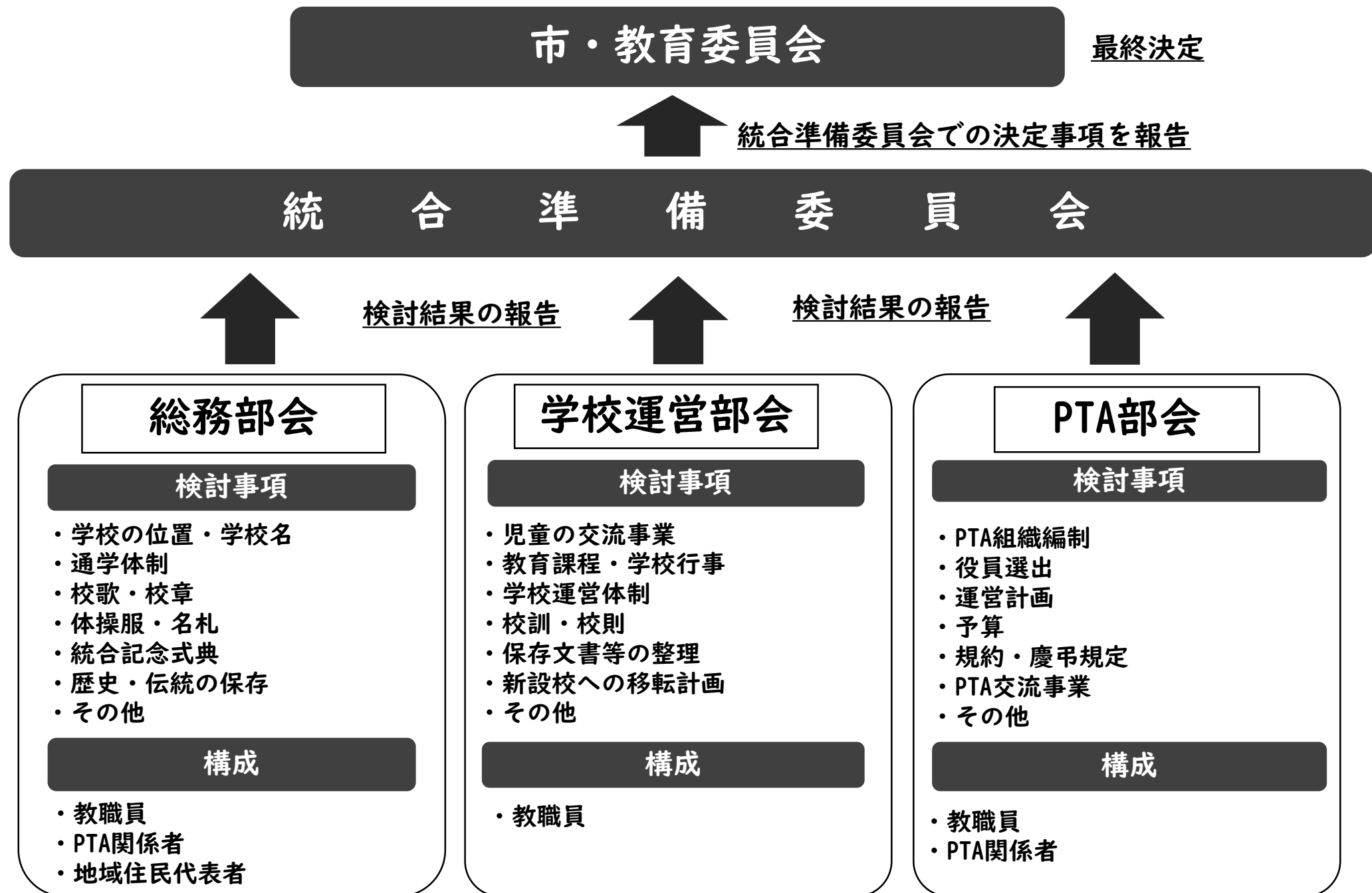
※ 総 務 部 会 ： 学校の位置・学校名などを検討。

※ 学校運営部会：教育課程・学校運営体制などを検討。

※ P T A 部 会 ： PTA組織の運営方針などを検討。

5. 統合に向けた準備

●統合準備委員会の体系図（案）



5. 統合に向けた準備

●今後の主なスケジュール (案)

【令和8年1月～3月】

- 令和7年度 第2回「市立小中学校適正配置実施計画検討委員会」開催
- 「統合準備委員会」発足
- 「合同説明会」開催

【令和8年4月～6月】

- 「統合準備委員会・全体会」の開催
- 「検討部会」の開催（決定まで随時開催）

【令和8年7月～9月】

- 令和8年度 第1回「市立小中学校適正配置実施計画検討委員会」開催
- 「統合準備委員会・全体会」の開催
- 市議会への報告
- 閉校に伴う予算確保

【令和8年10月～12月】

- 令和8年度 第2回「市立小中学校適正配置実施計画検討委員会」開催

【令和9年1月～3月】

- 閉校記念式典・記念事業の開催
- 卒業式

◆適宜、実施するもの◆

- ◇市長・副市長・教育長への報告
- ◇説明会の開催

- ◇教育委員会・校長会への報告
- ◇統合準備委員会だよりの発行

**資料2 「大生小と五箇小による統合計画について」
の質疑応答（意見交換）に移ります。**